

9月号

第400号

創刊 昭和29年7月  
題字 鶴木大寿先生

# 会報

## 富山県小学校教育研究会

発行日 令和元年9月

発行所  
富山市千歳町1-5-1  
(富山県教育記念館)

富山県小学校教育研究会

印刷所 中央印刷株式会社

## 自らを見つめ直して

富山県教育委員会 小中学校課長 近藤 智久



富山県小学校教育研究会が、昭和24年の発足から、ここに70周年を迎えられたことに、心から敬意を表するとともに、深甚の祝意を表します。

諸先輩方が自発的に築かれた本研究会は、終戦4年目という混乱の中で産声を上げました。「小教研十年史」を紐解いてみますと、そこには、全県を一丸とする自主研究団体は、当時全国的にも稀であったことや創立までの苦勞、発足当時の教科等部会の研究課題、夏季講習等のあゆみ、昭和30年から全県で実施されていた本研究会の学力調査の結果等が掲載されていました。前例の少ない研究団体を立ち上げ、それから6年後には学力調査も開始されており、無から有を生み出すご苦勞はいかほどであったかと拝察いたします。また、「あとがき」に目を移すと、「五千人の研究が一つの方向に歩んだ足あとを結ぶことに努めた」という言葉とともに、「いたずらに歴史を誇らず、率直に批判に耳を傾ける態度を失いたくない」とありました。そのため、定期的に発行する会報には、敢えて研究会に対する会員からの批判的な意見を必ず掲載するようにし、本研究会をさらによりよいものに発展させていこうと取り組んだ、と綴られていました。批判にもしっかりと耳を傾けてこられた本研究会への諸先輩方の熱い思いをひしひしと感ずるとともに、よい方

向に向かうために、自らを見つめ直すことの大切さを改めて感じ、「教育県富山」の原点をみた思いがしました。

「脚下照顧(きゃっかしょうこ)」という言葉があります。「脚下照顧」は、禪の極意を表した言葉が由来であり、悟りとは他に求めるものではなく、自らを見つめ直すことで得られるものだという教えを端的に表した言葉です。本研究会の「実践資料を持ち寄り、子供の姿で語ろう」という合言葉のもと、よい方向を目指し、自らを見つめ直してこられた諸先輩方の熱い思いや取組は、この言葉に通ずるものであると思います。

いよいよ次年度からは、新学習指導要領が全面实施となります。今まで積み上げてきた教育の成果を見つめ直し、新しい時代にふさわしい学校教育の在り方を求めていく必要があります。このような中、授業実践を基に、自らの取組を見つめ直し、指導の在り方を研究する本研究会の役割は、益々重要になると考えます。

授業の真理を会得することは簡単なことではありません。しかし、自らを見つめ直し、その真理に近付こうと努力することは大切なことであり、このことが、これまで諸先輩方が築いてこられた「教育県富山」の継承につながるのではないのでしょうか。